

国際感覚あふれる人を育てる

国際化推進ビジョン

平成 26 年 5 月

(一財) 遠野市教育文化振興財団

I 国際化推進ビジョンの目的

当財団は、教育文化事業、国際交流事業、生涯学習事業及び芸術振興事業を通じて、「心豊かで夢をもち、郷土を愛する人を育てる」ことを基本理念に掲げています。国際化推進ビジョンは、国際感覚あふれる人づくりのため、国際交流分野における財団の考え方や姿勢をまとめて示したものです。

なお、具体的な計画期間は定めずに、必要に応じて柔軟に修正していきます。

II 国際交流のあり方と実現のための事業

財団が考える当市の国際交流については、大きく2項目とし、各々実現のための事業を整理してまとめました。

なお、事業はアイデア（案）段階のものもありますが、今後様々検討して実現可能なものに取り組んでいく考えです。

外国との相互交流を目指して

キーワード：ふれ合う・観る・食べる

遠野市が外国と交流することにより、①「遠野物語」を世界に発信する機会となり、外国人観光客の増につながることで、②異文化体験をすることにより国際感覚あふれる人づくりに寄与することが期待できます。

実現のための事業

1 中高生海外派遣事業

《事業の概要》

①目的

次代を担う中学生の国際理解や国際交流への関心を高め、また、海外での異文化体験を通じてグローバルな視野と感覚を醸成させるとともに、自国「日本」や郷土「遠野」を考える機会とし、国際化に対応できる人材の育成を図るものとする。

②派遣先

アメリカ合衆国・テネシー州チャタヌーガ市
CSAS校・CSLA校

③派遣期間 通常1月（今年は8泊10日）

④研修内容

ホームステイや学校での体験を通じて、アメリカの文化や歴史、生活習慣等について理解を深めるとともに、自分の意見をはっきり言える積極性を身につける。

ホームステイ、体験入学等 8日間

⑤派遣人数 生徒9名

○平成11年からこれまで派遣された生徒は150名以上。過去に行ったアンケート調査

結果で、かなり効果、成果がある事業であることから、今後も継続していきます。
○過去には高校生の派遣も行っていましたが、近年は実施していないことから、市民も含めた交流の方向性についても今後検討していきます。

2 姉妹都市（サレルノ）交流事業

《事業の概要》

映画「遠野物語」が縁で姉妹都市になったイタリア・サレルノ市と文化やスポーツ等様々な交流を続けている。

昭和59年8月に姉妹都市締結調印以来、その都度、テーマをもって相互に交流し、これまで延べ305名の市民がサレルノを訪れ、サレルノからは117名が当市を訪れている。

○交流を始めてから30年が経過し、両市の社会情勢も変化してきているので、今後の交流のあり方も含めて検討すべき時期にきているものと考えます。このことについては、市と連携して進めていきます。

3 シュタイナウ(独)との交流（案）

《考え方》

遠野市は「遠野物語」で有名な日本のふるさととして国内外にPRしている。

遠野物語を世界に向けてアピールすることにより、遠野市に対する理解と関心が深まり、来遠者（外国人観光客）の増加につながる。このことにより市内を訪れる外国人との交流の機会が増え、市民の国際意識が高まることが期待できる。

したがって、遠野物語の話者で日本のグリムと称される「佐々木喜善」とドイツのグリム兄弟との関係による交流を進めることは、検討に値すると思います。

4 コーディネーターの活用

《考え方》

①外国との交流を円滑に行うためには、現地との連絡調整を担う者（コーディネーター）の役割が大きい。

②当市の状況は、次のようになっている。

コーディネーター	外国名
市職員	イタリア・サレルノ
財団職員	アメリカ・チャタヌーガ
JOCA職員	アフリカ諸国

○円滑な交流のためには、次の方法が考えられる。いずれも、一朝一夕には実現できませんが、市及び関係者と連携して進めていきます。

- ①コーディネーターを養成（育成）する。→市又は財団職員を長期研修させることによって可能ですが、財源及び受け入れ先等の課題を解決する必要があります。
- ②現地に滞在している遠野出身者等の協力を得る。→現在も適宜行っているため、より明確に位置付けしていきます。
- ③現地の方で、日本語が堪能の方の協力を得る。→遠野市に長期間滞在してこちらの事情を良く理解している方。もしくは、交流を通じてそういう方を育てていくことも必要だと思います。

外国人にやさしいまちを目指して

キーワード：話す・もてなす・楽しむ

2020年開催の東京オリンピック、国際リニアコライダー（ILC）、世界遺産の平泉、遠野物語、SL銀河など日本や岩手そして遠野市を訪れる外国人観光客は、年々増加するものと予想されます。

当市に観光で訪れた外国人から「また訪れてみたいまち」と言ってもらえるように、市民が取り組むことにより、国際理解が深まり、外国人にやさしいまちになるものと考えます。

笑顔で挨拶したり、気軽に道案内に応じたりして、英語に親しみ、外国人と接する機会になるものと思います。

実現のための事業

1 国際理解講座

《事業の概要》

普段なかなか知ることのできない世界の国々の文化を知ることにより、市民の国際理解を深めるために、青年海外協力協会（JOCA）と連携して定期的を開催している。外国人やJOCAの関係者等の多彩な講師陣が、現地の情報や知識を要点良く説明したり、実際に料理を作り懇談しながら学ぶ講座で、参加者から好評を博している。

○参加者が固定化傾向にあるので、PRや内容等検討して参加者の増加に努めます。

2 外国人支援事業（日本語教室）

《事業の概要》

日本語教室を月2回定期的で開催して、市内在住外国人の日常生活の支援をおこなっている。

- 利用者が数名と少ないが、必要な事業と考え、今後も継続して実施します。
- 市内には約 100 人の外国人がいることから、特に市内の企業等の協力によりPRやニーズの把握に努めます。

3 AUボランティア受入事業

《事業の概要》

JOCA-アフリカ連合委員会(AUC)国際ボランティア連携事業として、JOCAが取り組んでいる事業に協力して、2012年の第1陣ボランティアを受け入れし、2014年の第3陣(予定)まで継続している。

第2陣の時は2名のアフリカ人が当財団の事務所に2か月間席をおいて、市内の小中高でアフリカの文化や社会情勢を紹介する授業の実施や当財団の青少年育成事業やキッズ英会話教室等様々な活動に参加協力した。

アフリカ人と身近でふれあうことは、子ども達は勿論のこと、市民の国際理解を深める機会となっている。

- 市内の小中高でのアフリカの文化や社会情勢を紹介する授業やキッズ英会話教室等において、ニーズが多いことから今後もJOCAと協力して実施します。

4 キッズワールドクラブ

《事業の概要》

①目的

本格的に英語を学習する前の段階で、楽しく英語に触れることにより英語に対する抵抗感をなくす。また、外国人講師との交流を通し、異文化を理解する心を育む。

②対象（各コース定員 10 名）

アップルコース（幼児 4歳～6歳）親子参加型

ストロベリーコース（小学1年～2年生）

フラワーコース（小学3年～4年生）

スターコース（小学5年～6年生）

③内容

アップルコース（40分/回）：歌やダンス、本の読み聞かせなど

ストロベリーコース（50分/回）：簡単な単語を用いたゲームなど

フラワーコース（50分/回）：短い会話の練習や英単語を使用したゲームなど

スターコース（50分/回）：発音と短い会話の練習など

※最終回は合同クリスマスパーティー

④開催日 6月～12月までの毎月1回 各コース7回×4コース

⑤講師 日本人講師4名、外国人講師4名（予定）

- この事業は、人気があり参加希望が多いが、講師の関係で定員を各10名にしている。
- 講師陣も優秀であり、教え方に対する保護者の評判も良いので、講師の協力が得られる

限り継続していきます。

○ただし、あくまで英語に興味をもたせることが狙いであることから、英語塾のように頻回に開催することは考えていない。

5 超簡単実践英会話教室（案）

《考え方》

- ①観光地、観光ガイド、市民向けに超簡単カタカナ読み英会話（挨拶程度）教室を開催し、外国人から道を尋ねられても少し対応できるようにする。
- ②外国人の好印象が得られ、口コミにより来遠者の増が期待できるとともに、市民の外国人（英語）に対する苦手意識の解消につながるものとする。

6 国際交流フェスティバル（案）

《考え方》

- ①国際交流フェスティバルを市内で開催し、パネル展示やビデオまたは国際交流に市民等で携わっている方の講演等を行い、市民への啓もう普及を図り、国際化を推進する。
- ②市民を大勢参加させることを第一に考え、市等のイベントに合わせ開催する。

7 ホームページの英語訳等（案）

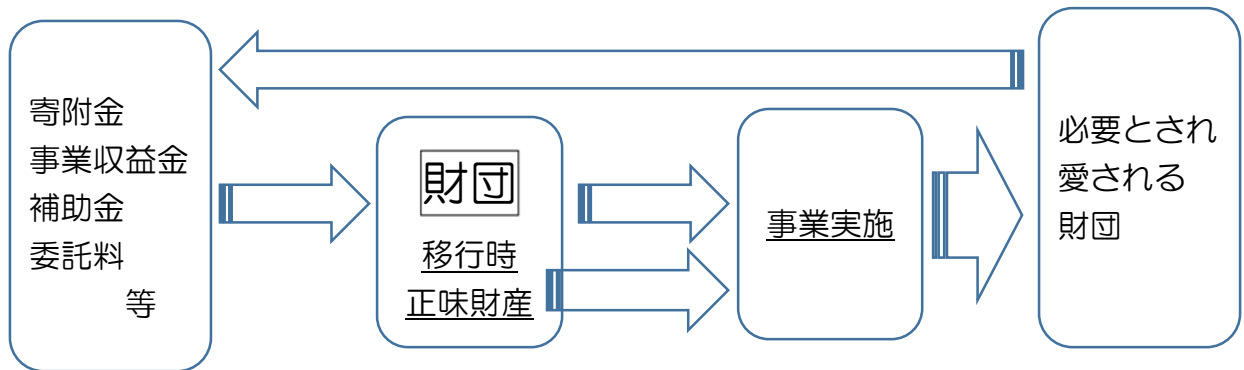
《考え方》

- ①当財団のHPの英訳化を行い、世界に情報を発信する。
- ②市内の主な観光地に施設内の簡単な説明を英訳したパンフや看板を作成する。

○②については、市や関係団体と検討して進めます。

Ⅲ 効率的な事業実施

一般財団は、寄附金、事業収益金、補助金、委託料などにより財源を補給（確保）しつつ、移行時点の正味財産を公益目的事業に支出する必要があります。この好循環を保ちつつ効率的に財源を充当して種々事業の実施に努めます。

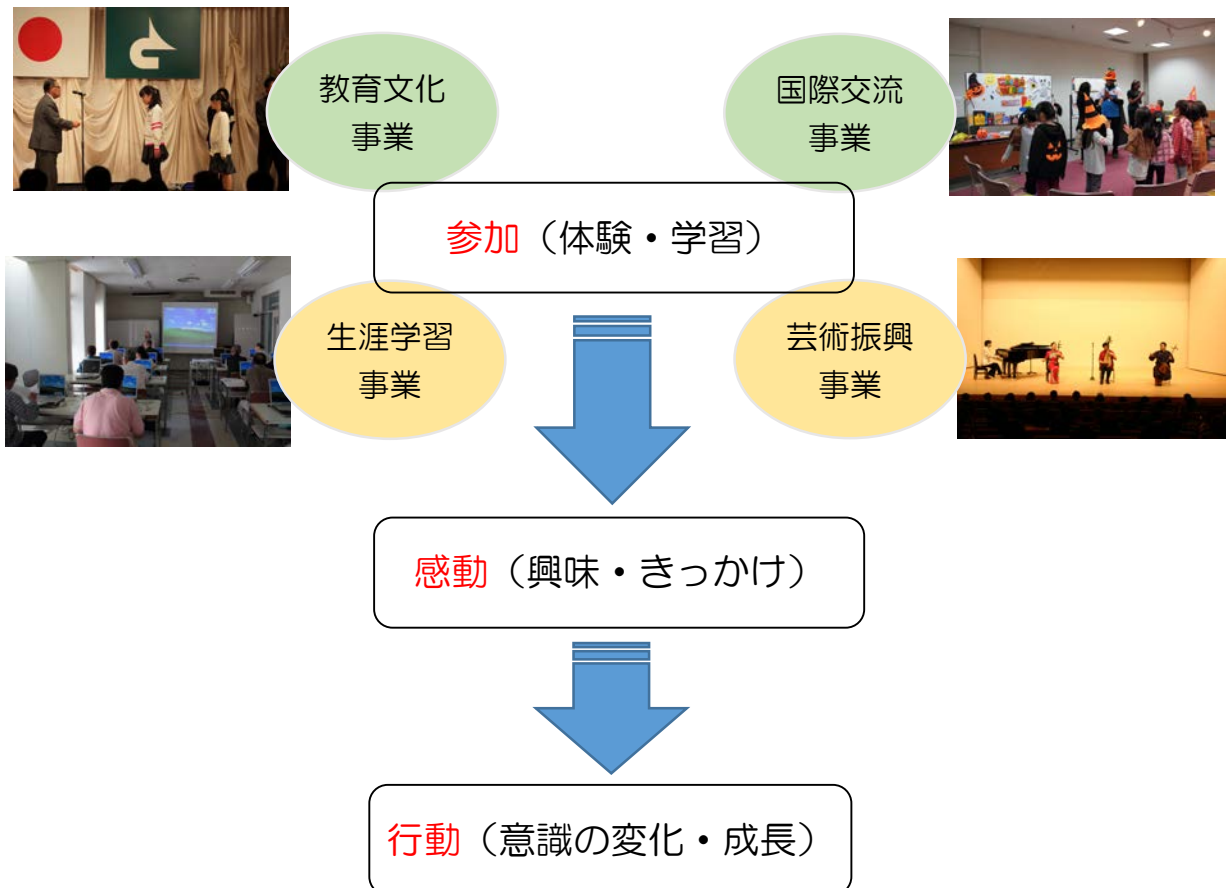


Ⅳ 国際感覚あふれる人づくり

当財団では、人づくりを次のように考え、これからも身の丈に合った事業を展開して、市民に愛され、必要とされる財団を目指します。

人は体験や知識の習得を通じて感動したり、興味をもった時に心が動き自ら行動する。体験や知識の習得は、きっかけや動機となる。

当財団は、まさにその「きっかけ」づくりのために様々な事業を行うことが「人づくり」につながるものと考えています。



国際化推進ビジョン（イメージ図）

